

各調査地点の生物生息状況と水質 (11/20)

調査地点 No.11 / 庄下川 / 新名月橋下流

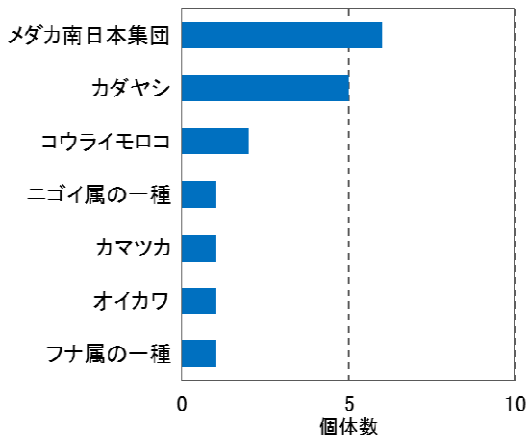
【調査地点の状況】



【調査地点の概要】

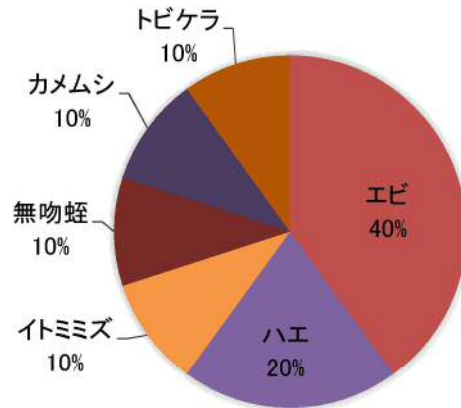
川幅	30.0 m
水深	0.90 m
流速	0.00 m/s
底質材料	砂
水際の構造	コンクリート護岸 沈水植物が生育
周辺土地利用	住宅地

【魚類 確認個体数】



多様度指数 : $H' = 2.4$ $1/\lambda = 5.2$

【底生動物 目別出現種数割合】



多様度指数 : $H' = 1.4$ $1/\lambda = 2.5$

【魚類】

- ・ 生息確認種数は7種、個体数合計は17個体。
- ・ 優占種はメダカ南日本集団（優占率35.3%）。

【底生動物】

- ・ 生息確認種数は10種。
- ・ 個体数による優占種はMicropsectra属の一種（ユスリカ科、優占率52.2%）。
- ・ 湿重量による優占種はミズミミズ科（優占率69.3%）。

【調査地点の特徴】

- ・ 希少種・絶滅危惧種であるコウライモロコとメダカ南日本集団を、特定外来生物であるカダヤシを確認した。
- ・ 流速は測定限界以下でほぼ止水状態で砂が堆積し、底生動物の確認種数は少なかった。
- ・ 水質はかなり汚濁が進んでおり、水色は透明で無臭であったが、底質は微硫化水素臭を呈していた。

水質判定結果

ams (α中腐水性)

各調査地点の生物生息状況と水質 (12/20)

調査地点 No.12 / 庄下川 / カッチャ川橋下流

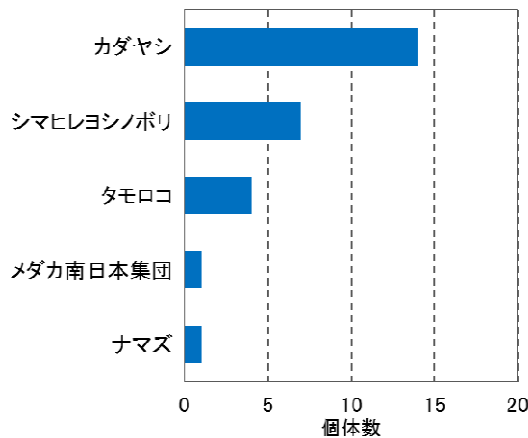
【調査地点の状況】



【調査地点の概要】

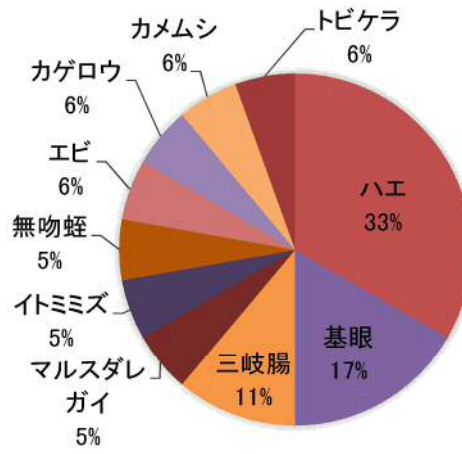
川幅	1.3 m
水深	0.07 m
流速	0.35 m/s
底質材料	コンクリート、砂、粗礫、 浮き石あり
水際の構造	コンクリート護岸
周辺土地利用	住宅地

【魚類 確認個体数】



多様度指数 : $H' = 1.8$ $1/\lambda = 3.0$

【底生動物 目別出現種数割合】



多様度指数 : $H' = 2.5$ $1/\lambda = 4.0$

【魚類】

- ・生息確認種数は 5 種、個体数合計は 27 個体。
- ・優占種はカダヤシ (優占率 51.9 %)。

【底生動物】

- ・生息確認種数は 18 種。
- ・個体数による優占種はアメリカナミウズムシ (優占率 41.5 %)。
- ・湿重量による優占種は Corbicula 属の一種 (シジミ科、優占率 74.2 %)。

【調査地点の特徴】

- ・希少種・絶滅危惧種であるメダカ南日本集団と、特定外来生物であるカダヤシを確認した。このうちカダヤシが個体数で優占していた。
- ・水深が小さく、大型魚類の生息には適していない環境であった。
- ・底生動物の確認種数は比較的多く、多様度指数も高かった。
- ・水質はやや汚濁が進んでいるものの水色は透明で、水・底質とも臭気はなかった。

水質判定結果

βms (β 中腐水性)

各調査地点の生物生息状況と水質 (13/20)

調査地点 No.13 / 昆陽川 / 住友鋼管関西事業所東

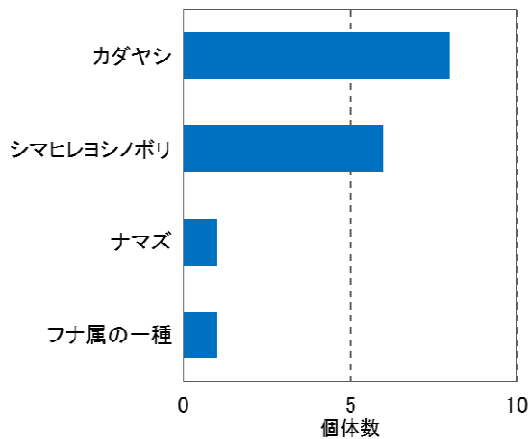
【調査地点の状況】



【調査地点の概要】

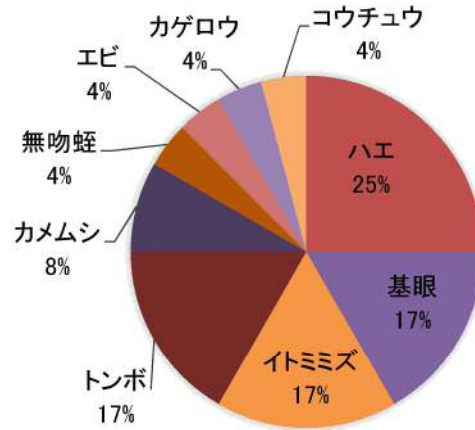
川幅	4.0 m
水深	0.11 m
流速	0.45 m/s
底質材料	砂、中礫、浮き石あり
水際の構造	コンクリート護岸、捨石工
周辺土地利用	住宅地、鉄道、工場

【魚類 確認個体数】



多様度指数 : $H' = 1.5$ $1/\lambda = 2.8$

【底生動物 目別出現種数割合】



多様度指数 : $H' = 2.4$ $1/\lambda = 4.2$

【魚類】

- ・生息確認種数は 4 種、個体数合計は 16 個体。
- ・優占種はカダヤシ (優占率 50.0 %)。

【底生動物】

- ・生息確認種数は 24 種。
- ・優占種は Polypedilum 属の一種 (ユスリカ科) で、個体数優占率は 35.3 %、湿重量優占率は 38.3 %。

【調査地点の特徴】

- ・魚類では特定外来生物のカダヤシが優占種となっていた。
- ・水位の季節変動が大きく、調査時の水深は 0.11 m と小さかったが、豊水時には水深が 1.00 m 程度に上昇した痕跡があった。
- ・砂や中礫が堆積して浮き石があり、底生動物の確認種数は比較的多かった。
- ・水質はきわめて汚濁が進んでおり、水色は淡褐色を呈していた。

水質判定結果

ps (強腐水性)

各調査地点の生物生息状況と水質 (14/20)

調査地点 No.14 / 昆陽川 / 名和橋上流

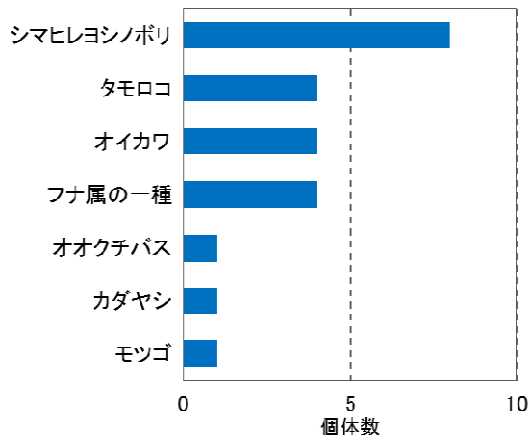
【調査地点の状況】



【調査地点の概要】

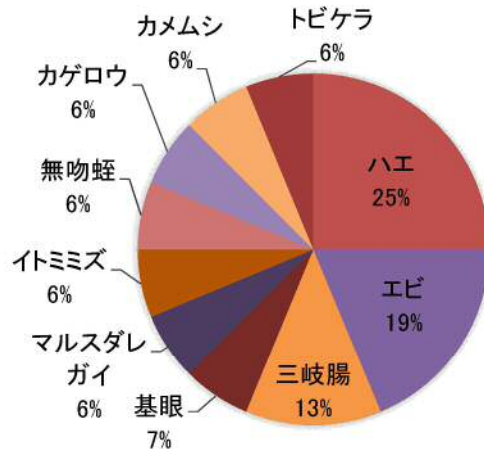
川幅	5.0 m
水深	0.22 m
流速	0.35 m/s
底質材料	中石、浮き石あり
水際の構造	鋼矢板 右岸には抽水植物が繁茂
周辺土地利用	住宅地

【魚類 確認個体数】



多様度指数 : $H' = 2.4$ $1/\lambda = 5.5$

【底生動物 目別出現種数割合】



多様度指数 : $H' = 3.0$ $1/\lambda = 7.5$

【魚類】

- ・生息確認種数は 7 種、個体数合計は 23 個体。
- ・優占種はシマヒレヨシノボリ (優占率 34.8 %)。

【底生動物】

- ・生息確認種数は 16 種。
- ・個体数による優占種は Micropsectra 属の一種 (ユスリカ科、優占率 22.8 %)。
- ・湿重量による優占種は Tipula 属の一種 (ガガンボ科、優占率 46.9 %)。

【調査地点の特徴】

- ・特定外来生物であるカダヤシとオオクチバスを確認した。
- ・中石 (粒径 200~500 mm) が堆積して浮き石があり、抽水植物が繁茂して多様な生物の生息に適した環境となっており、魚類、底生動物とも多様度指数は高かった。
- ・水質は清冽であった。同一河川上流の No.13 はきわめて汚濁が進んでおり、No.14 の上流で流入する支流等により汚濁が希釈されている可能性がある。

水質判定結果

os (貧腐水性)

各調査地点の生物生息状況と水質 (15/20)

調査地点 No.15 / 庄下川 / 波洲橋上流

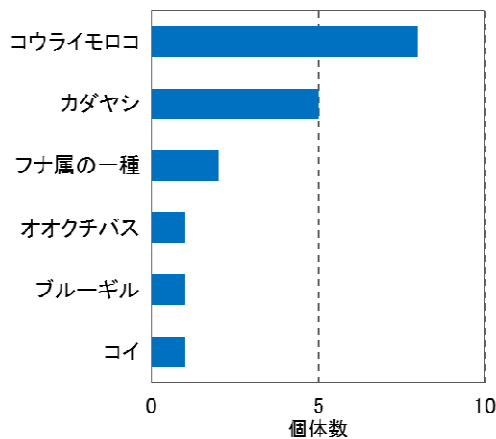
【調査地点の状況】



【調査地点の概要】

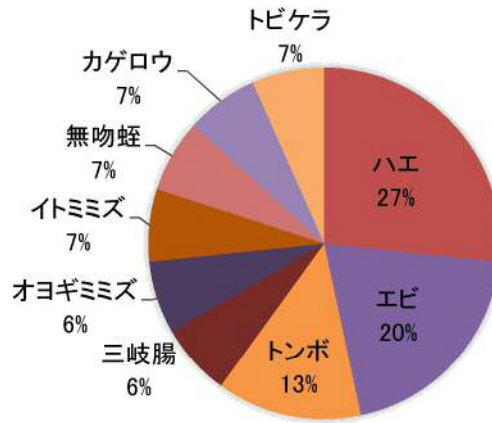
川幅	20.0 m
水深	0.52 m
流速	0.00 m/s
底質材料	砂泥
水際の構造	鋼矢板 抽水植物が生育
周辺土地利用	住宅地、工場

【魚類 確認個体数】



多様度指数 : $H' = 2.1$ $1/\lambda = 3.9$

【底生動物 目別出現種数割合】



多様度指数 : $H' = 1.5$ $1/\lambda = 2.1$

【魚類】

- ・ 生息確認種数は 6 種、個体数合計は 18 個体。
- ・ 優占種はコウライモロコ (優占率 44.4 %)。

【底生動物】

- ・ 生息確認種数は 15 種。
- ・ 優占種は Dero 属の一種 (ミズミミズ科) で、個体数優占率は 67.3 %、湿重量優占率は 52.4 %。

【調査地点の特徴】

- ・ 希少種・絶滅危惧種であるコウライモロコと、特定外来生物であるカダヤシとブルーギル、オオクチバスを確認した。このうちコウライモロコが個体数で優占していた。
- ・ 流速は測定限界以下でほぼ止水となっており、河床には砂泥が堆積し、一部に抽水植物が生育していた。
- ・ 水質はやや汚濁が進んでおり、水色は薄茶色となっていた。

水質判定結果

βms (β 中腐水性)

各調査地点の生物生息状況と水質 (16/20)

調査地点 No.16 / 庄下川 / 玉江橋上流

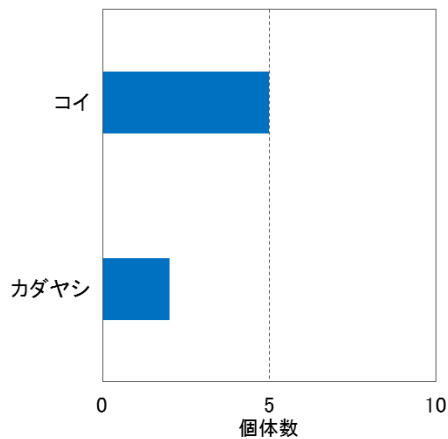
【調査地点の状況】



【調査地点の概要】

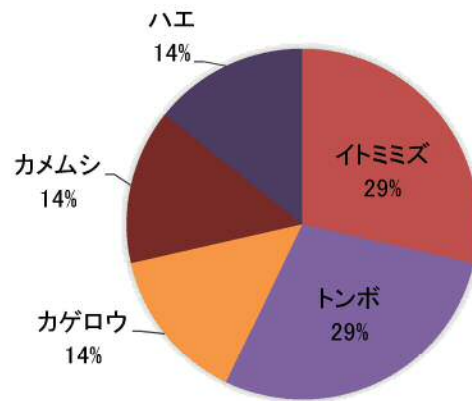
川幅	20.0 m
水深	0.95 m
流速	0.00 m/s
底質材料	砂泥、細礫
水際の構造	コンクリート護岸、捨石工 抽水植物、ヨシ類が生育
周辺土地利用	会館、住宅地、工場、道路

【魚類 確認個体数】



多様度指数 : $H' = 0.9$ $1/\lambda = 1.9$

【底生動物 目別出現種数割合】



多様度指数 : $H' = 1.1$ $1/\lambda = 1.7$

【魚類】

- ・ 生息確認種数は 2 種、個体数合計は 7 個体。
- ・ 優占種はコイ (優占率 71.4 %)。

【底生動物】

- ・ 生息確認種数は 7 種。
- ・ 優占種はミズミミズ科で、個体数優占率は 76.9 %、湿重量優占率は 92.6 %。

【調査地点の特徴】

- ・ 特定外来生物であるカダヤシを確認した。
- ・ 魚類、底生動物とも確認種数が少なく、また多様度指数も低かった。
- ・ 流速は測定限界以下でほぼ止水となっており、河床には砂泥や細礫が堆積し、水際に抽水植物が生育していた。
- ・ 水質はかなり汚濁が進んでおり、水色は緑褐色で底質は弱い硫化水素臭を呈していた。

水質判定結果

ams (α 中腐水性)

各調査地点の生物生息状況と水質 (17/20)

調査地点 No.17 / 藻川 / 上園橋上流

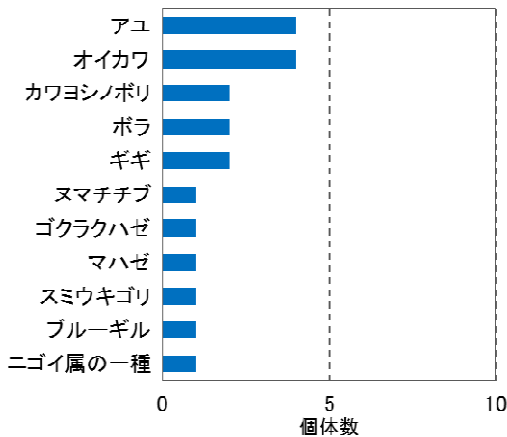
【調査地点の状況】



【調査地点の概要】

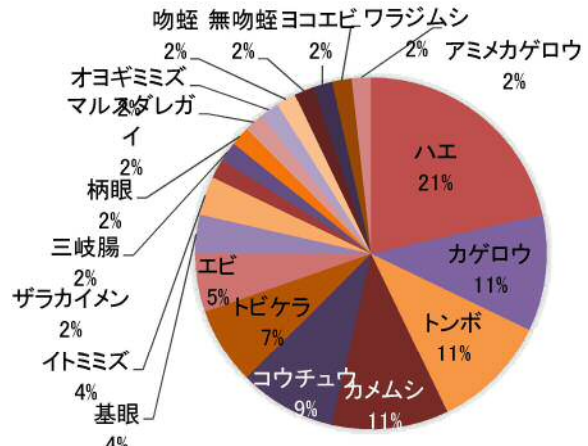
川幅	25.0 m
水深	0.17 m
流速	0.45 m/s
底質材料	砂、中礫、小石、浮き石あり
水際の構造	コンクリート護岸 抽水植物、ヨシ類、ヤナギ高木が生育
周辺土地利用	住宅地、工場

【魚類 確認個体数】



多様度指数 : $H' = 3.2$ $1/\lambda = 12.7$

【底生動物 目別出現種数割合】



多様度指数 : $H' = 2.9$ $1/\lambda = 4.2$

【魚類】

- ・生息確認種数は 11 種、個体数合計は 20 個体。
- ・優占種はオイカワ、アユ（優占率 20.0 %）。

【底生動物】

- ・生息確認種数は 56 種。
- ・個体数による優占種はミズムシ（優占率 43.9 %）。種別湿重量は未測定。

【調査地点の特徴】

- ・両側回遊魚であるアユを、特定外来生物であるブルーギルをそれぞれ確認した。
- ・底生魚や遊泳魚など多様な魚種の生息を確認しており、魚類の多様度指数は全調査地点中で最も高くなった。
- ・多様な粒径の底質が堆積し、抽水植物等が繁茂しており、多様な生物の生息に適した環境となっており、底生動物の確認種数も多く、多様度指数も高かった。
- ・水質はかなり汚濁が進んでいるものの水色は透明で、水・底質とも無臭であった。

水質判定結果

ams (α 中腐水性)

各調査地点の生物生息状況と水質 (18/20)

調査地点 No.18 / 猪名川 / 新南園橋上流

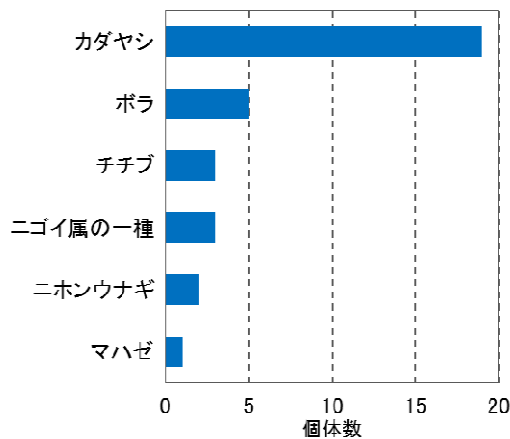
【調査地点の状況】



【調査地点の概要】

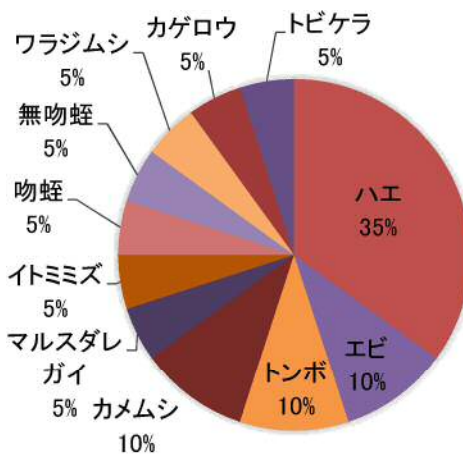
川幅	60.0 m
水深	0.26 m
流速	0.55 m/s
底質材料	砂、中礫、小石、浮き石あり
水際の構造	コンクリート護岸 抽水植物などの草本、ヤナギ低木が生育
周辺土地利用	住宅地

【魚類 確認個体数】



多様度指数 : $H' = 1.9$ $1/\lambda = 2.8$

【底生動物 目別出現種数割合】



多様度指数 : $H' = 3.1$ $1/\lambda = 6.8$

【魚類】

- ・生息確認種数は6種、個体数合計は33個体。
- ・優占種はカダヤシ（優占率57.6%）。

【底生動物】

- ・生息確認種数は20種。
- ・個体数による優占種はミズムシ（優占率29.5%）。
- ・湿重量による優占種はイシビル科（優占率46.7%）。

【調査地点の特徴】

- ・希少種・絶滅危惧種であるニホンウナギ（降河回遊魚）とチチブ、特定外来生物であるカダヤシを確認した。このうちカダヤシは個体数で優占していた。
- ・回遊・汽水魚であるボラとマハゼを確認しており、汽水域との連続性が保たれている。
- ・多様な底質が堆積し抽水植物等が生育しており、多様な生物の生息・繁殖に適しており、底生動物の確認種数も多く、多様度指数も高かった。
- ・水質はかなり汚濁が進んでいるものの水色は透明で、水・底質とも臭気はなかった。

水質判定結果

ams (α 中腐水性)

各調査地点の生物生息状況と水質 (19/20)

調査地点 No.19 / 猪名川 / 山手幹線橋梁下流

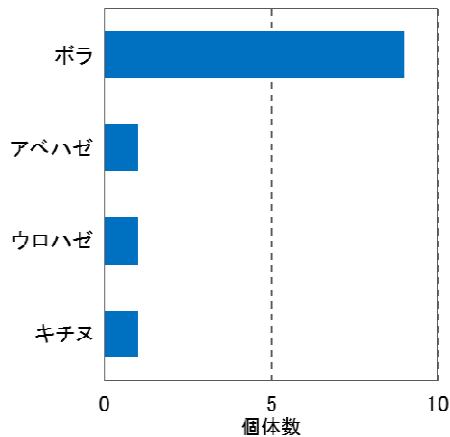
【調査地点の状況】



【調査地点の概要】

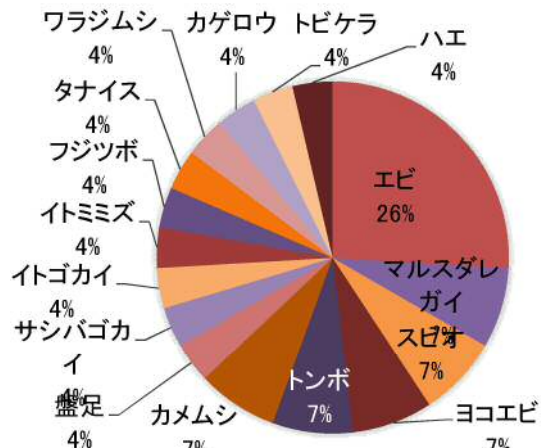
川幅	160.0 m
水深	0.70 m
流速	0.00 m/s
底質材料	泥
水際の構造	コンクリート護岸
周辺土地利用	住宅地

【魚類 確認個体数】



多様度指数 : $H' = 1.2$ $1/\lambda = 1.8$

【底生動物 目別出現種数割合】



多様度指数 : $H' = 2.1$ $1/\lambda = 3.5$

【魚類】

- ・生息確認種数は 4 種、個体数合計は 12 個体。
- ・優占種はボラ（優占率 75.0 %）。

【底生動物】

- ・生息確認種数は 27 種。
- ・個体数による優占種は Notomastus 属の一種（イトゴカイ科、優占率 41.2 %）。種別湿重量は未測定。

【調査地点の特徴】

- ・魚類の確認種はすべて回遊魚または汽水魚であった。
- ・底生動物の確認種も海産種が多数を占めた。
- ・流速は測定限界以下でほぼ止水となっており、泥が堆積していた。
- ・潮汐の影響（痕跡）を目視により確認した。
- ・水質はやや汚濁が進んでおり、水色は褐色で、底質は弱い硫化水素臭を呈していた。

水質判定結果

βms (β 中腐水性)

各調査地点の生物生息状況と水質 (20/20)

調査地点 No.20 / 神崎川 / 神崎橋上流

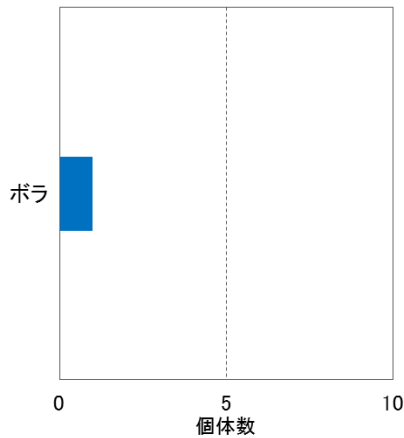
【調査地点の状況】



【調査地点の概要】

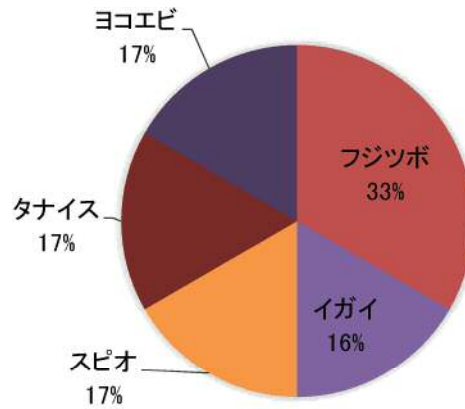
川幅	300.0 m
水深	2.60 m
流速	0.25 m/s
底質材料	泥
水際の構造	鋼矢板
周辺土地利用	工場、住宅地

【魚類 確認個体数】



多様度指数 : $H' = 0.0$ $1/\lambda = 1.0$

【底生動物 目別出現種数割合】



多様度指数 : 不明

【魚類】

- ・生息確認種数は1種、個体数合計は1個体。
- ・優占種はボラ（優占率 100.0 %）。

【底生動物】

- ・生息確認種数は6種。
- ・定量調査では底生動物を採取することができなかったため、優占種は不明。

【調査地点の特徴】

- ・魚類はボラを目視により1個体のみ確認しており、魚類の多様度指数は最低となった。
- ・底生動物の確認種数も少なく、定量採取では底生動物を採取できなかった。
- ・潮汐の影響（痕跡）を目視により確認した。
- ・水質はかなり汚濁が進んでおり、底質は強い硫化水素臭を呈しており、河床部は無酸素状態となっていた。

水質判定結果

ams (α 中腐水性)